

# 第27期（令和4年3月期）事業報告書

令和3年4月1日より令和4年3月31日まで

令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大による影響が続き、緊急事態宣言や蔓延防止措置による事業の縮小及び変更が生じ、運営面では理事会の書面による決議や事務局の営業時間短縮等の対応を行った。

## I 公益目的事業 1

環境の保全に配慮した繊維製品の再生利用等を通じて、環境への負荷ができる限り低減される生活文化の創造に寄与する事業

### 1. 環境保全に配慮したユニフォームのリサイクルシステム提供事業 （リサイクルマーク事業）

#### （1）リサイクルマークの交付

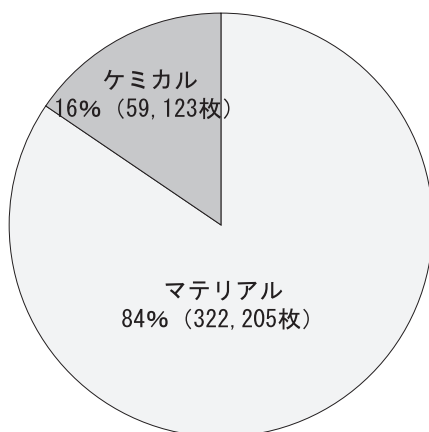
令和3年度に交付したリサイクルマークは、下記のとおりである。

マテリアルリサイクルマーク	322,205 枚	331 件
ケミカルリサイクルマーク	59,123 枚	256 件
合 計	<b>381,328 枚</b>	<b>587 件</b>

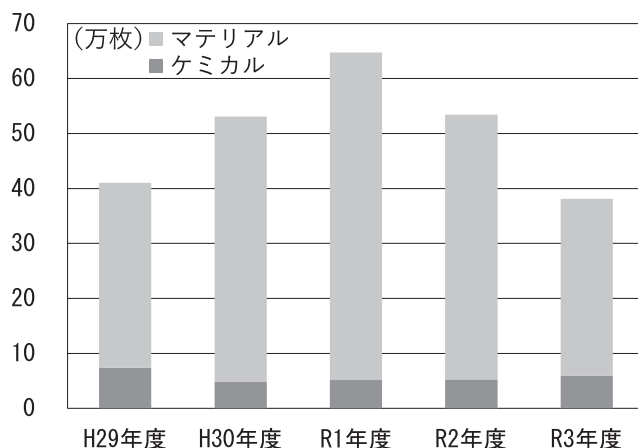
令和3年度交付実績



リサイクルマーク



令和3年度交付内訳



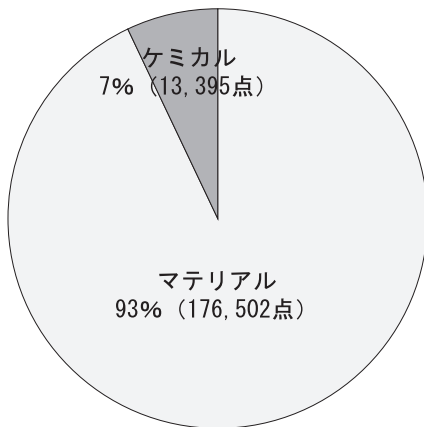
過去5年間の交付推移

## (2) 使用済みユニフォームの回収

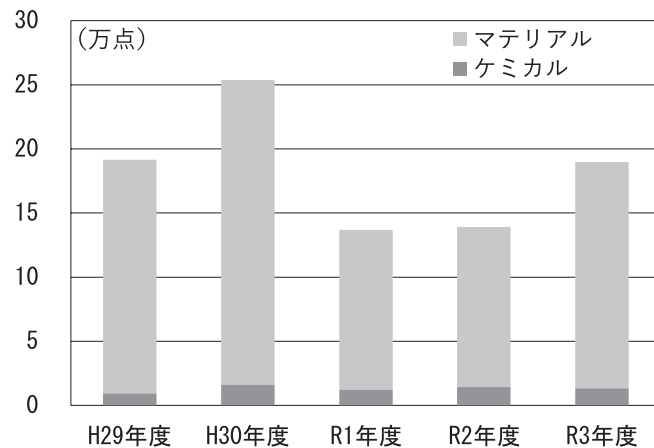
令和3年度に回収した使用済みユニフォームは、次のとおりである。

マテリアルリサイクルマーク付使用済みユニフォーム	176,502 点	839 件
ケミカルリサイクルマーク付使用済みユニフォーム	13,395 点	14 件
合 計	<b>189,897 点</b>	<b>853 件</b>

令和3年度回収実績



令和3年度回収内訳



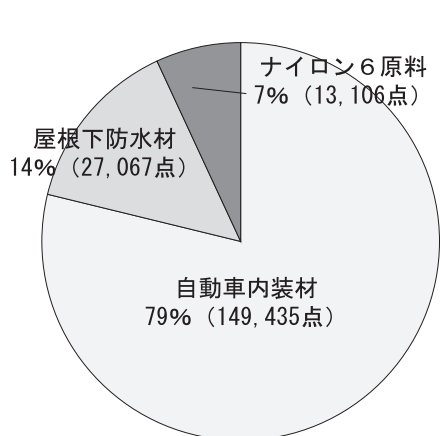
過去5年間の回収推移

## (3) 使用済みユニフォームのリサイクル処理

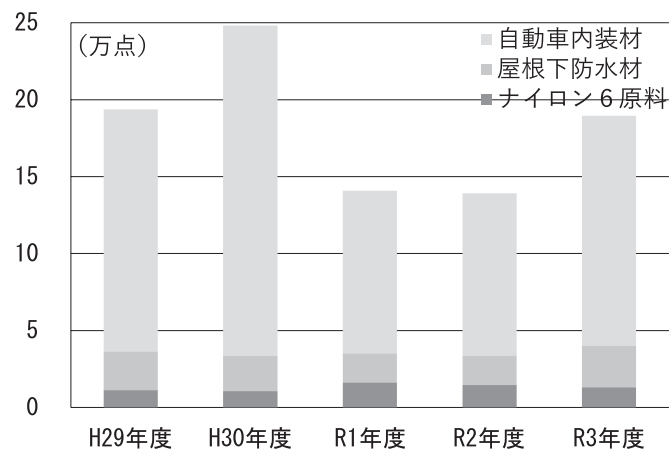
令和3年度にリサイクル処理した使用済みユニフォームは、下記のとおりである。

マテリアルリサイクル処理	自動車内装材	149,435 点	63.4270t
	屋根下防水材	27,067 点	9.1720t
ケミカルリサイクル処理	ナイロン6原料	13,106 点	6.6531t
合 計		<b>189,608 点</b>	<b>79.2521t</b>

令和3年度リサイクル処理実績



令和3年度リサイクル処理内訳



過去5年間のリサイクル処理推移

#### (4) リサイクルマーク事業管理委員会の開催

本委員会は、リサイクルマーク事業における重要事項の協議やトラブル時の対応を行っている。令和3年度は、緊急の案件がなかったため、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催を見送った。

#### (5) リサイクルマーク事業管理業務の実施

##### ◆ 広域認定の管理

本事業にかかる広域認定について、環境省へ廃棄物（使用済みユニフォーム）の処理実績報告、認定内容の変更届出及び変更申請を行った。

##### ◆ 職員の講習受講

廃棄物の適正適法な処理を推進し円滑なリサイクルシステム運営を行うため、事業担当職員が公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センター主催の産業廃棄物処理講習を受講・修了した。

##### ◆ リサイクル処理に関する証明書の発行

将来におけるリサイクル処理を証明する「リサイクル処理事前証明書」、すでに実施したリサイクル処理を証明する「リサイクル処理事後証明書」を会員からの申請により発行している。令和3年度は事後証明書を108件発行した。

##### ◆ 会員への回収・リサイクル処理状況の報告

令和3年7月、令和2年度中に回収リサイクル処理した使用済みユニフォームについて、対象会員に対し「使用済みユニフォーム回収・リサイクル処理終了報告書」をもって報告した。

##### ◆ 未回収ユニフォームの回収促進

令和3年7月、会員が提出したリサイクルマーク交付申請書の情報に基づき、令和2年度中に回収予定日が到来した未回収ユニフォームについて、対象会員に対し「着用終了予定日経過通知書」をもって通知し、未回収ユニフォームの回収促進を図った。

##### ◆ リサイクルマークの商標管理

本機構はリサイクルマークの商標登録を行っている。令和3年度は、会員及びユーザー企業からの印刷物等へのリサイクルマーク掲載による商標使用申請を2件承認した。

## 2. 環境保全に配慮した生活文化に関する調査研究事業

### (1) 新規事業実施準備

新たな調査研究事業実施に向け、情報や資料収集等の準備を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止対応による営業縮小のため実施を取りやめた。

### (2) 南九州における900ml茶びんのリユースシステム事業フォローアップ

環境省の循環型社会形成実証事業(\*)として、本機構が新規に企画・製造し、市場に出荷された900ml(茶)統一規格びんは、主として焼酎の充てんに使用されている。この

900ml(茶)統一規格びんは、対象地域である南九州を中心に、これまで順調に出荷本数・回収本数を伸ばしてきたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和3年度は出荷回収ともに低い実績となった。

	全 国	九州内のみ	平成16～令和3年度総数
出荷本数	452,569 本	297,019 本	23,229,887 本
回収本数	107,914 本	94,438 本	9,392,338 本
回収率	23.8%	31.8%	40.4%

### 令和3年度リユースびん出荷・回収実績

※事業名：平成15・16年度循環型社会形成実証事業「南九州における900ml茶びんの統一リユースシステムモデル事業」／平成17年度フォローアップ事業

## 3. 持続可能な社会づくり活動表彰事業

毎年、持続可能な社会推進を目的に、地域社会・国際社会への貢献、資源循環、環境教育及び生物多様性保全活動等、豊かな環境を引き継ぐため、環境、経済、社会が一体となった持続可能な社会づくりに資する活動を行う企業・団体を顕彰している。

### (1) 公募・審査

令和3年4月27日～8月31日、自薦他薦を問わず受賞候補者を一般公募し、審査基準に基づき、事務局が応募者25件ついて一次審査を行い、17件の候補者を選定した。

令和3年10月27日、持続可能な社会づくり活動表彰審査委員会を開催し、審査委員が一次審査選定候補者について審査し、2021年度受賞者を決定した。

審査委員会では、全国各地からの応募に加え、全体的に内容がよく、新規性の高い活動、環境活動として知名度の高い活動が並んだ中、活動の全体性や、持続可能な社会づくりという表彰意義により叶う活動が受賞活動として選定された。



### 公募チラシ

### 【審査委員会】

委員長	広中 和歌子	元環境庁長官・公益社団法人環境生活文化機構会長
委員	竹内 恒夫	名古屋大学大学院環境学研究科名誉教授・特任教授
委員	星野 智子	一般社団法人環境パートナーシップ会議副代表理事
委員	森 高一	NPO 法人日本エコツアーリズムセンター共同代表

## (2) 2021 年度受賞者

### ◆ 環境大臣賞

命をつなぐPROJECT 学生実行委員会・日本エコロジスト支援協会・各連携企業・行政・専門家「命をつなぐPROJECT」(愛知県知多半島)

学生、NPO、企業、行政等の連携による生態系保全活動。

生物多様性の保全・推進及びその地域啓発を目的に、学生実行委員会と彼らを支援するNPO、フィールドの提供と協力を担う各連携企業、専門的なアドバイスをする有識者、活動地域自治体の愛知県、東海市、知多市等の多様な主体からなる生態系ネットワークが「命をつなぐPROJECT」。知多半島の企業緑地に、ビオトープやアニマルパスウェイを整備して生態系を復元・保全し、地域向けイベント開催や広報活動をとおして情報発信している。2011年、内閣府公募事業として日本エコロジスト支援協会が企画。学生の熱意が企業の垣根を超えたネットワークづくりを促し、現在の幅広い主体の連携活動につながった。



### ◆ 地域づくり活動賞

真岡児童館 やさしクラブ

「子ども自ら考え、行動する気候変動対策」(栃木県真岡市)

児童館の子どもたちによる環境保全活動。

2003年、環境保全などの活動により地域との交流を通して奉仕の心を育むことを目的に当クラブが設立。「関東の富士見百景」に指定された磯山での森林保全及び環境美化活動に取り組む。また、夏祭り等での3R活動推進のためのフリーマーケット出店運営、エコキャップ回収・古着支援、壁新聞作成を通じた調査研究と積極的なSDGs活動を実施。さらに、児童生徒が自ら考え行動することを重視して月に1回以上エコミーティングを開催し、活動の幅を年々広げ、国際理解や被災地支援など幅広い分野に波及し、子どもたちの気候変動対策への学びや普及啓発に繋がっている。



### ◆ ESD活動賞

#### 特定非営利活動法人新宿環境活動ネット

「環境学習応援団『まちの先生見本市!』」(東京都新宿区・他)

NPOによるESD人材ネットワーク構築・支援活動。

地域のくらしや企業・団体活動を通じてサステナビリティに取り組む専門家を「まちの先生」と捉え、2001年に環境学習やESDを支援するゲストティーチャーの人材ネットワークとして「環境学習応援団」を結成。環境学習プログラムガイドの発行や小・中学校でのキックオフイベントを定期的に開催している。さらに、「学校の先生」と「まちの先生」のつなぎ役として、ESDのノウハウを生かした環境学習コーディネーターによる出前授業の企画調整サポートを実施。現在、市民団体・NPO・企業・行政機関等の72団体が登録している。



### ◆ 資源循環活動賞

中特グループ「中特グループが取り組む持続可能な社会課題の解決」(山口県周南市)

廃棄物処理事業者による地域SDGs推進活動。

生活環境革命で人々を幸せにするという理念のもと、社会貢献が会社を発展させ、会社の発展が社会貢献につながるという社会課題解決型企業として、ビジネスを通じた地域の社会課題の継続的解決を目指して活動を展開。地元小学校への環境出前授業、高齢者への終活セミナー、体験の機会のある場認定の環境プログラム提供、遺品整理の事業化、ダチョウによる食品リサイクル・商品開発、フードバンクとの協働、廃棄物リサイクル等、自社事業を生かしつつ地域のニーズをとらえた多様な活動を展開している。



### ◆ 生物多様性保全活動賞

浅口市寄島町アッケシソウを守る会

「本州唯一のアッケシソウ自生地が繋ぐ保護活動」(岡山県浅口市)

地域団体による希少植物の保全活動。

浅口市寄島町寄島干拓地内の活動地は、環境省レッドデータブックで絶滅危惧種に指

定されているアッケシソウの本州唯一の自生地で、自然公園として整備が進められている。当会は2004年に、アッケシソウの保護管理、後世への継承を目的に、地域住民が中心となって発足。年10回程度の草刈や環境整備、アッケシソウの生態観察、分布調査や塩分濃度測定等による保護管理を行っている。さらに、市内外の小学生、高校生や地元企業従業員の協力による保全活動や地元小学校への出前講座、自生地での観察会を実施している。



### (3) 表彰式

令和3年11月29日、KKRホテル東京（東京都千代田区）にて表彰式を開催した。開催にあたって新型コロナウイルス感染対策を徹底し、懇親会をとりやめ規模を縮小した。

はじめに来賓の環境省総合環境政策統括官 和田 篤也氏よりご挨拶をいただき、広中和歌子審査委員長から各受賞者の講評があった。

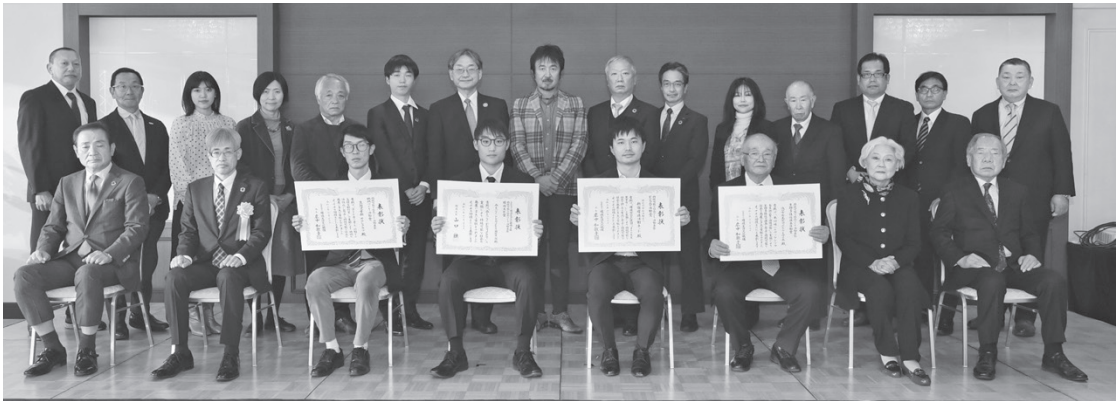
続いて受賞者に表彰状が授与され、記念撮影の後、受賞者の命をつなぐPROJECT 学生実行委員会 委員長 丸井聡士氏、真岡市 市民生活部 環境課 主査 芳賀勝彦氏、特定非営利活動法人新宿環境活動ネット 代表理事 飯田貴也氏、株式会社中特ホールディングス 企画広報室 室長 吉本妙子氏、浅口市寄島町アッケシソウを守る会 会長 花房泰志氏から謝辞をいただき、受賞活動のご紹介をいただきました。



環境大臣賞 命をつなぐPROJECT 学生実行委員会 丸井委員長への表彰状授与



表彰式の様子



- 前列左から 堀松代表理事、環境省 和田統括官、真岡市 芳賀主査、命をつなぐ PROJECT 丸井委員長、新宿環境活動ネット 飯田代表理事、アッケシソウを守る会 花房会長、広中会長、虫明理事長
- 後列左から 横山監事、外川理事、新宿環境活動ネット 荒川氏、星野委員、竹内委員、日本エコロジスト支援協会 中村氏、日本エコロジスト支援協会 大東理事、日本エコロジスト支援協会 北村理事、日本製鉄 田島主査、IHI 中根主幹、日本エコロジスト支援協会 辻氏、アッケシソウを守る会 荒川氏、梅田代表理事、木村監事、長谷川監事

#### 4. 講演会・研修会・シンポジウム等開催事業

##### ◆ 第24回環境文化講演会

毎年6月に環境月間実施行事として、環境保全に関する生活文化および社会経済システムに関する知識の普及啓発を目的に、地球環境や循環型社会に関する幅広いテーマについて、高度の学識と豊富な経験を持つ有識者を招き、環境文化講演会を開催している。

令和3年度は、下記のとおり開催した。

日程：令和3年6月28日（月）

場所：航空会館（東京都港区）

講師：慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科  
教授 蟹江 憲史氏

演題：SDGsを“道しるべ”に社会の再構築を



開催案内チラシ





講演会の様子

### SDGsテーマに講演会

**環境生活文化機構**

環境生活文化機構は6月28日、第24回環境文化講演会を都内で開催した。SDGsを「道しるべ」に社会の再構築をのり、慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科教授の蟹江憲史氏がSDGs（持続可能な開発目標）を指す上で鍵になる考え方や取り組み方を紹介した（写真）。

蟹江教授は1994年慶応義塾大学総合政策学部卒業、各地の大学で教員を務めた後、パリ政治学院客員教授などを経て2015年から現在、本府SDG推進本部専門職員、同大学SDG研究所×SDG推進評価・調査検討委員会DGR代表、国連持続可能開発会議（1オナ20）日本標準（SDGs）ステークホルダー代表顧問をはじめ、日タイス・ミューティング構成員。

**環境生活文化機構**

また、SDG研究の第一人者として活躍している。著書に「SDGs（持続可能な開発目標）中公新書」など。講演会の参加は、環境関連の企業トップ、幹部が多いことから、蟹江教授は「ファッション×SDGs」という切り口で、衣服の生産から流通、廃棄までのサイクルとSDGsを関連付けて説明。海外の有名人からの問い合わせが増えており、ファッション業界が積極的にSDGsを経営に取り入れている様子を紹介し、耳目を引いた。

繊維ニュース 令和3年7月2日

## SDGsを道しるべに 慶応大学 蟹江憲史教授が講演

蟹江教授

公益社団法人環境生活文化機構では6月28日、東京都内・新橋「航空会館」において、徹底した感染防止対策のもとで第24回環境文化講演会を開催した。

同機構では、毎年6月の環境月間行事として、環境保全に関する生活文化および社会経済システムに関する知識の普及啓発を目的に、地球環境や循環型社会に関する幅広いテーマについて、高度な学識と豊富な経験を持つ有識者を招き、環境文化講演会を開催している。本年度は、講師に慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科の蟹江憲史教授（慶応義塾大学SDG研究所×SDG・ラボ代表、国連大学サステイナビリティ高等研究所非常勤教授）を講師に招いて、「SDGsを「道しるべ」に社会の再構築を」の演題で講演会が行われた。

SDGs（持続可能な開発目標）は、2015年に国連総会で全加盟国が合意、2030年までにそのような社会の実現を目指している。そうした中で、「SDGs」という言葉を最近聞くようになったものの、その内容や意味が良くわからないという声を耳にする状況にある。SDGsは2030年の常識を示している目標であり、目標を掲げることで社会変革を起さそう、という新しいグローバルガバナンスの形を浮き彫りにした。これを踏まえ、経済、社会、環境という三側面を包括的かつ均等に含み、あるべき2030年の形を示したSDGsは、コロナ禍の経験も踏まえた世界の発展の好道とした。

きていた貧困率は上昇に転じてしまった。自然災害なども含めて、負の連鎖を断ち切ることは、経済、社会、環境を持続可能にしていくことと同様、コロナ禍は、持続可能な社会システムの構築が必須かつ喫緊の課題であることを改めて明らかにした。とりわけ、経済一辺倒の成長という考えを、倒の成長を頭に、環境、経済、社会、環境の持続性を頭に、これら三側面におけるバランスの取れた成長を実現しない限り、21世紀の人類の繁栄はあり得ないことを浮き彫りにした。これを踏まえ、経済、社会、環境という三側面を包括的かつ均等に含み、あるべき2030年の形を示したSDGsは、コロナ禍の経験も踏まえた世界の発展の好道とした。

資源新報 令和3年7月19日

## 5. 環境保全に配慮した生活文化に関する広報・普及啓発事業

### (1) 季刊誌「エルコレダー」の発行

本機構の事業や環境保全に関する情報発信・情報交流によって循環型社会に対する多くの人々の関心を高めることを目的に、季刊誌「エルコレダー」を2回発行した。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響による取材の中止、職員勤務体制の変更等により、予定していた4月号、1月号は発行に至らなかった。

◆ 第 86 号 (令和 3 年 7 月 30 日発行)

【巻頭】第 24 回環境文化講演会「SDGs を道しるべに社会の再構築を」

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 教授 蟹江 憲史氏

【寄稿】ESD がつなぐ「SDGs とその推進のエンジンとしての ESD」

立教大学名誉教授 阿部 治氏

○環境を見つめる人々68「広がる“ちいさな馬広場”」

立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科

教授 萩原 なつ子氏

○エコ&ユニフォーム最前線 36

「21 秋冬商戦はアフターコロナへの前哨戦？」

ダイセン株式会社 記者 富永 周也氏

○事務局報告「令和 2 年度リサイクルマーク事業ユニフォーム

リサイクルシステム実施状況」

○事務局案内「2021 年度持続可能な社会づくり活動表彰 募集案内」



◆ 第 87 号 (令和 3 年 11 月 30 日発行)

【巻頭インタビュー】

「前例がない事態を予測して立ち向かえ

—生命倫理学から見た現代社会の課題—」

京都大学大学院 文学研究科 准教授 児玉 聡氏

【寄稿】「アパレル業界が直面する水リスク」

水ジャーナリスト、武蔵野大学客員教授 橋本 淳司氏

【寄稿】「エシカル・ファッションは地球を救えるか？」

ファッションジャーナリスト 生駒 芳子氏

○環境を見つめる人々69「コウノトリの子育てから学ぶ SDG s !」

立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科 教授 萩原 なつ子氏

○エコ&ユニフォーム最前線 37「展示会の再開に思う」

ダイセン株式会社 記者 富永 周也氏

○事務局報告「2021 年度持続可能な社会づくり活動表彰受賞者決定」



(2) ホームページ

本機構のホームページでは、情報公開・情報発信を目的に、機構情報や事業の紹介等を行っている。リサイクルマーク事業のページは、リサイクルシステムを利用する会員の利便性を考慮し、必要書類等のダウンロード機能を付加しているほか、調査研究事業の活動実施状況の公開、季刊誌「エルコレーダー」の掲載、持続可能な社会づくり活動表彰の募集・結果告知、環境文化講演会の参加申し込み受付等を行っている。

### (3) 広告の掲載

ダイセン株式会社の「ユニフォームプラス6月号（環境特集号）」（令和3年6月発行）に、本機構のリサイクルマーク事業ユニフォームリサイクルシステムの紹介広告を掲載した。



ユニフォームプラス6月号掲載広告

## II 組織運営

### 1. 理事会・社員総会の開催

本機構の円滑な運営を図るため、令和3年度は下記のとおり理事会及び社員総会を開催した。

#### ◆ 第1回理事会（書面決議）

日程：令和3年5月26日（水）

内容：第26期（令和3年3月期）事業報告及び決算報告の承認  
役員候補者の選定  
新規入会会員の承認  
令和3年度定時社員総会招集の決定

#### ◆ 第2回理事会

日程：令和3年6月28日（月） 会場：航空会館901会議室

内容：内閣府への事業報告等定期提出書類の承認  
代表理事の職務執行状況の報告

#### ◆ 定時社員総会

日程：令和3年6月28日（月） 会場：航空会館703会議室

内容：第26期（令和3年3月期）事業報告及び決算報告の承認に関する件  
役員の選任に関する件

#### ◆ 第3回理事会

日程：令和3年6月28日（月） 会場：航空会館901会議室

内容：代表理事の選定  
役付け理事の選定  
新規入会会員の承認

◆ 第4回理事会（書面決議）

日程：令和3年10月25日（月）

内容：新規入会会員の承認

◆ 第5回理事会（書面決議）

日程：令和4年3月17日（木）

内容：令和4年度（第28期）事業計画・収支予算・資金調達及び設備投資の見込みに関する書類の承認

新規入会会員の承認

公益社団法人環境生活文化機構 経理規程の改定

2022年度持続可能な社会づくり活動表彰実施要領の決定

第25回環境文化講演会開催計画の決定

代表理事の職務執行状況の報告

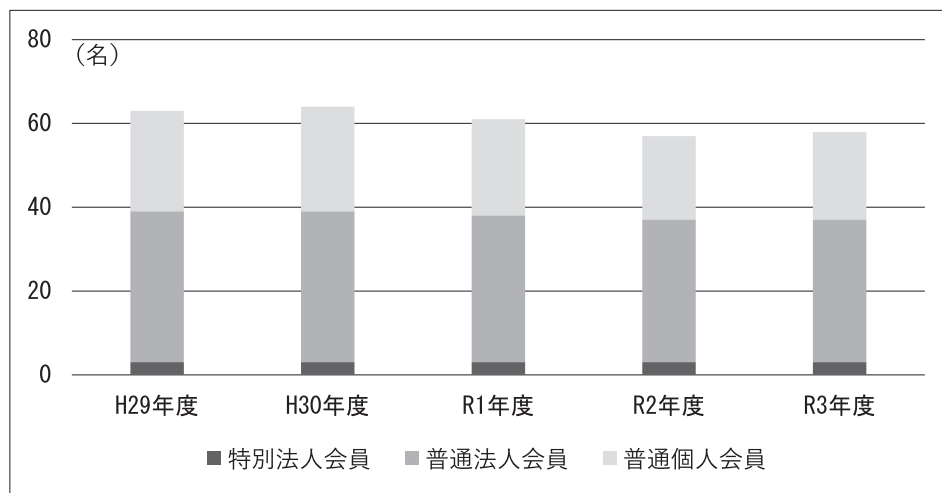
内閣府立入検査結果報告

機構運営状況報告

## 2. 会員数

令和4年3月期末の本機構会員数は58名であった。内訳は、特別法人会員3名、普通法人会員34名、普通個人会員21名である。

過去5年間の会員数の推移は、次のとおりである。



過去5年間の会員数推移